

フォトフェスタ2009 第25回東川町国際写真フェスティバル

写真が集う暑い夏—写真の祭典、どんどん祭りどどんと入出

写真が集うフォトフェスタ2009「第16回写真甲子園」「第25回東川町国際写真フェスティバル」が7月28日から8月2日まで6日間開かれました。写真甲子園は、本戦大会出場校数、撮影地ともに拡大して二層充実。後半2日間のフォトフェスタは、東川賞受賞者を囲む作品展、ギャラリートークがにぎわい、同時開催の「どんどん祭り」は、初日にどんと入り、2日にどんと出で、3日にどんと入りました。

7月28日から同月31日まで4日間開催した写真甲子園本戦大会は、

初出場8校を含む18校が出場しました。今大会から出場校が4校増え、撮影地には旭川市、東神楽町が加わって1市4町内6カ所のステージで夏の北海道を切り撮る熱戦を繰り広げました。

「優勝は九州・沖縄ブロック代表、沖縄県立南部工業」。7月31日、表彰式会場の農村環境改善センターにファイナル公開審査を終えた結果が響き渡りました。

初出場で見事に栄冠を勝ち取ったのは、佐久田拳斗、知念愛佑美、奥濱藍の3選手。「エーッ！」と3人で一瞬顔を見合わせ、この瞬間を記録に納めようと、思わず持っていたカメラを抱えて壇上でシャッターを切り始めるほどの感激

ぶり。

立木義浩審査委員長、そしてゲストとして来町した女優の中島朋子さん2人から優勝旗を受け取り笑顔がいつばいに弾けました。

今年は、同じ九州・沖縄ブロックから2年ぶり出場した沖縄真和志高校が準優勝し、沖縄勢がワシントン受賞。「自然」「北海道」「ひと」をテーマに、鮮やかな色の表現力、生き生きとした描写力などが評価されたようです。

本道勢は、帯広南商業高校が昨年同様、町民特別賞を受賞。米俵(60キログラム)を獲得しました。

今大会は、初戦審査で昨年を71校上回る331校の応募で過去最高を更新。女優、中島朋子さんをゲストに招いて、写真家・立木義浩氏と2人のトークショーも行わ

れました。

後半8月1、2両日の国際写真フェスティバルは、受賞作家を招いて東川賞授賞式、受賞作家作品展、ギャラリートークが行われました。

海外作家賞のアン・フェラン氏(オーストラリア・シドニー在住)、国内作家賞の柴田敏雄氏(東京都内在住)、新

人作家賞の石川直樹氏(同)、特別賞の露口啓二氏(札幌在住)の4氏が出席。受賞作家作品展会場の文化ギャラリーで作品に込めた思いなどをそれぞれ披露しました。

会場では、新人写真



▲東川賞作品展テープカット (8月1日)



▶ギャラリートーク (8月2日、文化ギャラリー会場)

家が自分の作品を持ち寄ってプロ写真家から評価を受ける写真インデペンデンス展・合評の集いやストリート・ギャラリーなども行われました。

また太陽誘電(株)(東京)関連会社の(株)スタート・ラボ(東京)が今年も「デジタル写真のためのCD-R講座」を開設。CD-Rなどデジタル記録メディアを有効に生かす写真データ保存テクニックを来場者に指南しました。

第4回ストリートギャラリーフォトコンテストは、吉里演子さん(22) 大阪芸大Ⅱがグランプリを獲得しました。